

# 『執事の条件』

'22/01/09

聖書箇所: I テモテへの手紙 3 章 8-13 節 (新約 p.408)

今日、私たちは、新年に入って2度目の礼拝を捧げようとしています。…そんな、“新年早々の礼拝”だからこそ、私たちは、教会の行く末を左右するような事柄について学んでいきたいと思えます…。教会にとって大切な選択…、それは、教会のかじ取りをするリーダーシップの問題であります。

聖書のみことばが教えてくれている「教会のリーダーシップ」と言えば、まずは長老…、つまり牧師と、そして、執事たちであります。…当教会では、毎年1月に、その次の年度の執事候補者を教会員の皆さんに明らかにするという事になっています。教会員である皆さんは、その執事候補者たちが、聖書のみことばに適っているかどうかを審査すべきことを、みことばは教えてくれています。

## 命題: 神のみことばにかなった執事の条件とは？

でも、もしも、皆さんが、この聖書のみことばが教えてくれている「執事の条件」について正しく知らなかったら、どのようにして、その執事候補者の皆さんのことをみことばによって審査できるのでしょうか？「この人は、発言力があるから、執事に向いている？この人は私の意見に近いから、執事になってほしい？この人は裕福だから、執事になってほしい？」…そんな風な、聖書的でない理由で、執事に向いている・向いていない、というようなことになってしまうかも知れません。

そこで今日、皆さんと一緒に確認していきたいことは、この聖書のみことばが教えてくれている、執事の条件が、どういったものであるか？ということです。きっと、皆さんは、以前にも、このみことばからのメッセージを聞いてくださっていると思います。しかし、このみことばは、定期的に…、繰り返し繰り返し、学んでいかなければいけない部分でありますので、どうぞ、皆さんには、「もう前に聞いたから…」ではなくて、今一度、しっかりと聴いてみてくださいませう、お願いいたします。

どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばである、I テモテ 3:8-13 をご覧ください。そのみことばから、今日、私たちは、「神のみことばにかなった執事の条件」ということについて、ご一緒に、聖書のみことばを学んでいきたいと思えます。まずは、I テモテ 3:8-13 を読ませていただきます。

- 8 執事もまたこういう人でなければなりません。謹厳で、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利をむさぼらず、
- 9 きよい良心をもって信仰の奥義を保っている人です。
- 10 まず審査を受けさせなさい。そして、非難される点がなければ、執事の職につかせなさい。
- 11 婦人執事も、威厳があり、悪口を言わず、自分を制し、すべてに忠実な人でなければなりません。
- 12 執事は、ひとりの妻の夫であって、子どもと家庭をよく治める人でなければなりません。
- 13 というのは、執事の務めをりっぱに果たした人は、良い地歩を占め、また、キリスト・イエスを信じる信仰について強い確信を持つことができるからです。

## I・信仰が成熟している！(8-9 節)

今、お読みしました、この箇所、まず初めに教えられていますことは、**教会の執事になるような者は、その信仰が“成熟”しているような人物であらなければならない！**ということです。言うまでもなく…、イエス様を信じて救われた者は皆、クリスチャンであり…、信仰をお持ちです。しかし、ここで言われています条件とは、そのような信仰が“ある”だけではなく…、その信仰が、ある程度“成熟していなければならない！”ということなのです。まずは、そのことを皆さんと一緒に確認していきます。

まず、8-9節には、こう書かれてありました、「8 執事もまたこういう人でなければなりません。謹厳で、

二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利をむさぼらず、9 きよい良心をもって信仰の奥義を保っている人です。』って…。これを簡単に言うと、その人が霊的に成熟している！と言い得ると思えます。

まずは、『謹厳』という言葉です。普段、私たちは、あまり、こういった言葉を使いませんが、国語辞典では、「非常にまじめで、他人の言う冗談やうわついたことを好まぬさま。」と説明されておりました。原語であるギリシヤ語(σεμνός)を見てみますと、ここでは、「尊敬に値する、気高い、品位のある…」というような言葉が使われてあります。つまりは、非常に、落ち着いていて…、いつも堂々と、正しいことを行なっているような人物である、ということです。

次に、『二枚舌を使わず…』とあります。これは、つまり、「嘘をつかない、つまらない噂話などを広めない…」ということです。先程の、『謹厳』という表現が、「軽率な態度」に対する警告であるなら…、これは、「軽率な言葉」に対する注意とも言えます。例えば、ヤコブ書 3 章(ヤコブ 3:1-2.8)には、そのような言葉を制することの難しさについて教えられてありますが、教会の執事たちには、そのような言葉に対する注意や自制心…、また、そういった面における、他の人々からの信頼が有らなくてははいけません。

…と言いますのは、執事に限らず…、教会で働く者たちには、その働きの中で、個人のプライバシーに関わってくるようなことがあるからです。そういったことを、うかつに…、また、軽はずみに話してしまうことで、余計な問題が生じたり…、人が混乱したりするようなことが、極力、起こらないために…、教会の執事に限らず…、牧師や長老なども…、特に、こういった部分に関して注意する必要があるわけです。

その次には、『大酒飲みでなく…』とあります。いつも、このようなみことばがある時に、私がコメントいたしますのは、聖書は、必ずしも、すべての飲酒を禁じてはいない、ということです。…と言うのも、イエス様も聖餐式の際にぶどう酒を勧められましたし…、また、I テモテ 5:23 には、**テモテの健康を気遣ったパウロが、テモテに対して、『これからは水ばかり飲まないで、胃のために、また、たびたび起こる病気のためにも、少量のぶどう酒をういなさい。』**、つまり、「健康のために、少量のお酒を飲みなさい！」と勧めているみことばもあるからです…。ただし、それと同時に、私たちが覚えておかないといけないのは、この当時は、現代とは違い…、水の浄化(=水をきれいにするという技術)が進んでいなかったため、普通の水というのが、今程、良いものでは無かったということです。あくまでも、パウロは、テモテの“健康のために”、飲酒を…、しかも、『少量の…』という言葉をつけて、提案しているに過ぎません。

いずれにしても、明らかに問題なのは、大量のお酒を飲んで理性を失うような状態になってしまうこと…。つまりは、酔っ払ってしまうことです。エペソ 5:18 でも、『酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです…』とあるように、お酒の故に酔っ払ってしまうことを、聖書は禁じています。新改訳聖書でも、2度ほど、『酩酊』(ローマ 13:13; ガラテヤ 5:21)などという言葉が出てきますが…、そこで警告されていることは、私たちがお酒などの奴隷となってしまっ…、そういったものがないと平静を保てない…、また、大きな問題があった時などに、お酒などに走ってしまうことによって…、例え一時的であろうと…、様々な問題から逃げようとするのを、みことばは注意 & 警告をしてくれているのです。

次に、今日のみことばには、『不正な利をむさぼらず…』と書かれてあります。…と言いますのも、執事の働きの内には、どうしても、お金を扱うことが必要だからです。執事たちが、教会の献金などを扱い、教会の財政に関わる以上…、その人が不正な利益を得ようとする…、ということは、決して、避けることはできません…。

そして、9 節をご覧くださいと、『きよい良心をもって信仰の奥義を保っている人です。』とあります。ここで、『奥義』(μυστήριον)と訳されている言葉は、私たちがよく耳にする、「ミステリー」の語源になっている言葉で…、聖書では、「以前は、誰も知られているような形では知らされていなかったことが、ある段階で、神様によって知らされたこと…」を表わす時に使われています。

確かに、私たちはその昔、アブラハムやモーセ、ダビデさえ知り得なかったことを、今、知っています…。神が用意してくださった救いの御計画(=どのようにして、神が救いの御業を完成して下さるのか?)や、救い主イエス様の生涯に関して…、あるいは、教会のこと(=ユダヤ人だけでなく、異邦人を含めた世界中の人が、同じ神を信じ、それによって一つとされること)…、また、再臨のこと(=どのようにして、救い主が再び来られるのか?)…、終末のこと(世の終わりに関して)…、こういったことなどを、私たちは今、みことばによって知ることができます。そういったような、「信仰のイロハ」と言うような簡単なものではなく…、ある程度の聖書の教えに関して、執事は、正しい動機の内、しっかりと知っているべきであります。

こういった条件から、信仰を持って間のない方は、教会の執事には相応しくありません。例え、その方が、誰よりも熱心であったとしても…、あるいは、多くの好条件に恵まれていたとしても、です。…と言うのは、今日のみことばの少し前、1 テモテ3:6でも、『また、信者になったばかりの人であってははいけません。高慢になって、悪魔と同じさばきを受けることにならないためです。』と教えられてあるからです。もちろん、ここは、『監督』(1 テモテ3:1)に関する条件が教えられてある部分ですが…、執事も、基本、監督と同じような危険性があるとと言えます。

実際、今日のみことばの、1番初めの部分をご覧くださいと、『執事もまたこういう人でなければなりません…』(1 テモテ3:8)という言葉で始まっています。原語のギリシャ語を見てみると、「同じように、同様に…」と訳されるべき言葉(ὡσαύτως)があります。つまり、執事の条件も…、それまでに語られていた監督の条件と…、基本的には、そう大して変わらない、ということなのです。

以上のことから、みことばが教えてくれている執事の条件とは…、その人が信仰を持っていて、救われていることはもちろんで…、それ以上に、その人の信仰が成長している…、その方の信仰がある程度、成熟している者でなければなりません。だって、今日のみことばでも、8 節に、『執事もまたこういう人でなければなりません…』とあって…、執事の条件が、決して、いい加減なものではない！ということが、はっきりと示されてあるからです。

## II・審査の上、非難される点が無い！(10 節)

そういうわけで…、次に示されてある10節を見ますと、その執事たちを、執事の職に就かせるために、審査を受けさせるべきことが…、これまた、はっきりと示されてあります。つまり、執事たちは、決して、牧師の好き嫌いや教会の人気投票などで決められてはいけません。執事たちは、まず、審査を受けさせて…、その上で、“非難”される点が無かった人物となるべきことが教えられてあります。

10 節をご覧くださいと、このように書かれています。『まず審査を受けさせなさい。そして、非難される点がなければ、執事の職につかせなさい。』って…。ここで、『審査』(δοκιμάζω)と訳されている言葉は、「試験する、(テストによって)確かめる、吟味する、検討する…」というような意味で、執事になるような者たちが、公に、吟味されるべきことが教えられてあります。そのために…、実は、教会員である皆さんの助けや理解が必要になってきます。…と言いますのは、実際に、『審査』をするのは、牧師たちだけではなく…、教会員である皆さんでもあるからです。

だって、牧師や執事たちが、教会員全員のことを、事細かに知っているわけでは無いでしょ？…それこそ、家庭生活に至るまで…。私たち牧師が知ることができるのは、ひよっとしたら、皆さんのほんの一部、ひよっとしたら、日曜日の…、しかも、たった数時間の姿だけでも知れません。…そうでしょ？だから、執事たちの審査には、教会員である皆さんの判断、皆さんの協力が必要なのです！

実に、そのためにも…、教会員全員が、聖書のみことばが教えてくれている、正しい執事の条件というものを知っていなければなりません。だって、自分たちが、そういった条件を知らなかったら、どうやって、正しく審査すれば良いか分からないじゃないですか！…そうでしょ？

ひよっとしたら、ある人たちは、みことばの教えてくれている、執事の条件というものを知らないばかりに…、冒頭で話したような…、ただ信仰歴の長い方だったら良いのかな？と考えられるかも知れません。また、ある方は、雄弁で、才能ある人を選ばれるかも知れません。あるいは、この人は自分の意見に近いから、とか…。この人は健康で、時間もあるから…などという理由で、評価されるかも知れません。しかし、そういったことは、全く、この世的な基準であって…、みことばが教えてくれている条件ではありません。

そうですね？みことばは、『執事もまたこういう人でなければなりません！』(8 節)、つまり、このような人を選ばないといけない！という風に、はっきりと教えてくれているのであって…、私たちは、みことばの教えてくれている条件を、しっかりと理解した上で…、『審査』をしないとイケないのです。

そういうわけで、先程も言いましたように…、この教会が、神の前に正しく…、また、みことばに沿って、歩いていくために、教会員である皆さん方の協力や理解が必要になってきます。…と言いますのは、私たちが選ぶべき人物は、私たち…、聖書勉強会的な文化教室のリーダーでもなく…、また、この八田西株式会社のリーダーでもないからです。私たちは、主なるイエス・キリストをかしらとする、教会のリーダーたちを、しっかりと、みことばの教える条件でもって、選んでいかないとイケないのです。

皆さん、覚えてくださっています？…イエス様は、マタイ 16 章で、教会について、何とおっしゃいました？⇒マタイ 16:18、『…わたしはこの岩の上に…』、その後、何と続きます？⇒『“わたし”の教会を建てます…』とおっしゃられたでしょ？…そうです！私たちのこの教会は、キリストをかしらとする…、イエス様のみこころに沿った教会を建て上げていかないとイケないのです！私や皆さんの好みに合うとか合わないなんていうのは、一切関係無いのです！…でしょ？

よく、教会以外の場所で、「執事」と言いますと…、「貴族や富豪などの大きな家において、家事を監督する職。また、その人。」のことを指します。つまり、簡単に言い換えますと、「偉い人たちの使用人」です。しかし、聖書が教えてくれている、教会の中にいらっしゃる執事は、「使用人」のような存在ではありません。強いて言いますと、教会にあって、牧師や長老の助け(=サポート)をし、また教会をリードするのが、教会の執事であって…、決して、「使用人や使いっばり」のような存在ではありません。

聖書が教えてくれている教会のあるべき姿と言いますのは、私たちの信仰や働きというようなものが、上の世代から下の世代へ継承…、つまり、受け継がれていくことです。だって、イエス様は、昇天される時、弟子たちに「弟子をつくっていきなさい！」ということ命じられて、それが 2000 年も脈々と受け継がれていて、現在に続いているわけでしょ？

先程見ました、8-9 節の条件をご覧くださいと分かります通り、教会の執事たちは、教会の中でも、その信仰が成熟した者たちのことであって…、言わば、教会のリーダー的存在…、あるいは、教会の皆さんが模範とすべき人物たちであるはずで。そうですね？

今日のみことばの少し前、1 節に、『人がもし監督の職につきたいと思うなら、それは素晴らしい仕事を求めることである』ということばは真実です。』とあります通り…、監督(=牧師)も…、また、執事も…、神が喜んでくださる働きであります。しかも、その人の信仰が成長していく…、霊的に成熟させられていくということは、当然、神の前にも喜ばしいことですよ？

時々、ここ日本の教会では、「間違っただ謙遜」というようなものがはびこっていて…、「いえいえ、私が執事なんて…。教会のリーダーなんて、恐れ多いです！」というようなことをおっしゃることがあります。しかし、そういったような態度は、聖書的に見て…、正しい態度ではありません。神様が喜んでくださるのは、「こんな私でも、神が喜んでくださるなら…。こんな私を神が用いてくださるなら…。」という態度で、皆さんに与えられている賜物を、より積極的に用いてくださることです。教会のために…、また、教会を構成している教会員のために…、そして何より、私たちを救ってくださったイエス様の栄光のために…。

へりくだった末に、教会で何もしない…、あるいは、誰にでもできる奉仕しかなしい、というのは、せっかく、皆さんのことを救い出し…、その皆さんに霊的な賜物を与えてくださった神様に対して、逆に、失礼に当たります。神は、皆さんのことを用いようとして、今日という日を備え…、皆さんの必要を満たして下さっているのです。もしも、神が、皆さんのことを用いようとはされず…、もう用済みだとしたら…、とくに、その人は天に上げられているはずで…。ですから、どうぞ、神の前に、正しい態度…、正しい謙遜をもって、主に仕えていただきたいと思えます。

### Ⅲ・すべてに対して、**忠実**である！（11 節）

3つ目に教えられてありますのは、すべてに対して、“忠実”な人物です。これは、『婦人執事』、つまり、女性の執事にだけ限ったことではありません。どうぞ、今日のみことばの11節をご覧ください。『婦人執事も、威厳があり、悪口を言わず、自分を制し、すべてに忠実な人でなければなりません。』とあります。

ここをご覧くださいますと、今まで見てきたのと…、基本的には同じ条件が挙げられています。例えば、1番最初に挙げられている、①『威厳があり…』という条件は、8節で、『謹厳…』と訳されている言葉と全く同じギリシヤ語の言葉が使われています。その後、②『悪口を言わず…』というのも、言葉こそ違いますが、基本的には、8節にあった、『二枚舌を使わず…』という言動に関する注意と同じであると考えられます。また、③『自分を制し…』というのも、8節の、『大酒飲みでなく…』と相通じるものがあります。ここでは、しっかりと自分をコントロールすべきことが教えられてあります。8節で、お酒に逃げるのが禁じられているのは、恐らくは、男性の側に、そういった傾向が強かったからでしょうか…。

そして、次に教えられているのが、④『すべてに忠実な人…』という条件です。これも、これまでの流れから見て、女性の執事にだけ限った条件ではないと思われまます。…と言いますのは、聖書の中に、何度も、救われたクリスチャンたちの特質として、この『忠実…』という性質が挙げられているからです。また、それだけではありません。実は、ここで使われています、『執事』(διάκονος)という言葉の意味もまた、「仕える者、奉仕者…」であるということと考えた時、これは、男性にも、女性にも当てはまる条件だと考えられます。特に、ここで女性執事の条件に関して、『すべてに忠実な人…』と書かれてあるのは、「特に、夫に対しても、忠実でありなさい！」という意味からだと思われまます。

このように、教会の執事たちと言いますのは、男性であれ…、女性であれ、その信仰がある程度、成熟していて…、尚且つ、忠実な人物であるべきなのです。

### Ⅳ・しっかりと、**家庭**を治めている！（12 節）

4つ目で教えられてありますのは、しっかりと、“家庭”を治めている人物であります。教会の執事…、あるいは、群れの模範となるべき人物は、自分の“家庭”を治めているべきことが条件です。

12 節に、こう書かれてあります、『執事は、ひとりの妻の夫であって、子どもと家庭をよく治める人でなければなりません。』って…。ここでも、『～でなければなりません！』とあって、この条件が、いい加減なも

のではない！ということが断言されてあります。この条件に関しましても、少し前の5 節に、『——自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会の世話をすることができるでしょう——』とありますように、牧師だけでなく…、執事もまた…、しっかりと、自分の家庭を治めているべきことが教えられてあるのです。

何となく、ここ日本におきましては、神や教会に仕えるが故に…、自分の家庭をおろそかに…、つまり、犠牲にしている方たちのことを、「何と、あの先生は敬虔で、信心深いのだろう…」というようなことを考える節がありますが…、でも、私たちが考えないといけないことは、私たちがどう感じるかではなく…、聖書のみことばがどう教えてくれているか、であるはずで。そうですね？

確かに、聖書のみことばは、私たちクリスチャンが、神を信じ…、神に仕えるが故に…、この神様のことを1番に愛し…、1番に優先すべきことを教えてくれています。しかし、私たちは、この神に従うが故に、教会の働きや奉仕よりも…、自分の家庭のことを優先すべき場合もあるのです！聖書のみことばは、こう教えてくれています、「自分の家庭を顧みない人物は、教会のリーダーとして…、また、皆の模範としても相応しくない！」って…。

「なかなか難しい…」というのは、その通りです。…と言うのも、教会では、週に1度だけ、ある程度、敬虔なクリスチャンのふりをして、ある程度は、取り繕うことはできます。しかし、家族は、皆さんの生活の多くを知っています。牧師や執事は、その家庭にあって、模範となっていかなければならないのです。

どうぞ、皆さん。「私は執事になるような器じゃないから…」と思わないでください。神は、一人ひとりのクリスチャンが成長し…、弟子を作っていくことを教えてくれています。そのことは、皆さんが執事であろうとなかろうと変わりありません。子どもたちにとって、親である方々は…、あるいは、教会にあって、年長の皆さんは…、その全員が模範であるべきです！そのことは、皆さんが、どれ程、拒んでも…、あるいは、皆さんがいくら否定したとしても…、皆さんに続いていく若者たちにとって、大きな影響を与えてしまうからです！

### ⇒その結果：**神からの祝福である、成長**がある！（13 節）

最後、13 節で教えられていますことは、**私たちが、ちゃんと、みことばに従っていった後に続いてくる、神からの祝福である、“成長”がある！**ということです。最後、13 節に、こう書かれてあります、『**というのは、執事の務めをりっぱに果たした人は、良い地歩を占め、また、キリスト・イエスを信じる信仰について強い確信を持つことができるからです。**』って…。

教会が一丸となって、みこころにかなった執事を選び…、そうしてまた、その執事に選ばれた者たちが、しっかりと、執事としての務めを果たすことによって、何が起こっていくのでしょうか？⇒ここでは、『**良い地歩を占め…**』とありますが、ここで、『**地歩**』(βαθμός)と訳されている言葉は、「階段」とも訳せる言葉が使われています。つまりは、様々な信仰のステップ…、あるいは、信仰の壁を乗り越えていくことによって、さらに成長していく！成長させられていく！ということです。そうして、その人物は、さらに、信仰においても成長させられ、益々、強い確信を与えられていくのです。

最後に、もう1ヵ所だけ、聖書のみことばを引用させていただきます。出エジプト記 18:13-27 です。『13 翌日、モーセは民をさばくためにさばきの座に着いた。民は朝から夕方まで、モーセのところ立っていた。14 モーセのしゅうとは、モーセが民のためにしているすべてのことを見て、こう言った。「あなたが民にしているこのことは、いったい何ですか。なぜあなたひとりだけがさばきの座に着き、民はみな朝から夕方まであ

なたのところに立っているのですか。」15 モーセはしゅうとに答えた。「民は、神のみこころを求めて、私のところに来るのです。16 彼らに何か事件があると、私のところに来ます。私は双方の間をさばいて、神のおきてとおしえを知らせるのです。」17 するとモーセのしゅうとは言った。「あなたのしていることは良くありません。18 あなたも、あなたといっしょにいるこの民も、きっと疲れ果ててしまいます。このことはあなたには重すぎますから、あなたはひとりですることはできません。19 さあ、私の言うことを聞いてください。私はあなたに助言をしましょう。どうか神があなたとともにおられるように。あなたは民に代わって神の前にいて、事件を神のところに持って行きなさい。20 あなたは彼らにおきてとおしえとを与えて、彼らの歩むべき道と、なすべきわざを彼らに知らせなさい。21 あなたはまた、民全体の中から、神を恐れる、力のある人々、不正の利を憎む誠実な人々を見つけ出し、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長として、民の上に立てなければなりません。22 いつもは彼らが民をさばくのです。大きい事件はすべてあなたのところに持って来、小さい事件はみな、彼らがさばかなければなりません。あなたの重荷を軽くしなさい。彼らはあなたとともに重荷をになうのです。23 もしあなたがこのことを行えば、——神があなたに命じられるのですが——あなたはもちこたえることができ、この民もみな、平安のうちに自分のところに帰ることができます。」24 モーセはしゅうとの言うことを聞き入れ、すべて言われたとおりにした。25 モーセは、イスラエル全体の中から力のある人々を選び、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長として、民のかしらに任じた。26 いつもは彼らが民をさばき、むずかしい事件はモーセのところに持って来たが、小さい事件は、みな彼ら自身でさばいた。27 それから、モーセはしゅうとを見送った。彼は自分の国へ帰って行った。』

モーセの活躍していた時代、そこには、100万人とも…、200万人とも言われる、イスラエルの民の裁きというか…、仲裁などをモーセはしていました。しかし、それを見た、モーセのしゅうとが忠告しました、「あなただけがそれをするのは正しくない！」って…。そこで、モーセは、しゅうとの『助言』を聞き入れて、1000人の長、言わば、リーダーを設け…、その下に、100人のリーダー、50人のリーダー、10人のリーダーを任命して行くのです。そこでも、彼らがリーダーに選ばれた条件は、今日、私たちが学んだようなもので…、21節で教えられていました。そうすることによって、明らかに、モーセの負担は軽くなって、モーセは別のことをすることもできたでしょうし…、彼の精神的・身体的な負担も軽くなったことでしょう…。また、このことによって、モーセだけでなく…、“イスラエルの民全体が成長する機会”となって…、彼ら自身で、様々なことを考え…、彼ら自身で判断できるようになっていったのです！

### <励ましの言葉>

いかがでしょう？…確かに、今の出来事は、旧約の時代のことです。しかし、神のみこころは、基本的には、そう大きく変わるものでありません。私たちは、「牧師だけが、これをすべきである…。長老や執事じゃないと、これはしてはいけない…。」そんな基準を、勝手に設けてしまっていないでしょうか？もちろん、みことばが、そう教えているなら、話は別です。しかし、もし、そうでないなら…、皆さんは、「もっと、私たちに、奉仕を与えてください！」とさせていただきたくていられることを期待します。

皆さんも、よくご存知のように、正直言って、私は、あまり器用な人間ではありません。もしも、この教会の中で、働き人が私だけだとしたら…、間違いなく、この教会ができることは少なくなっていくでしょうし、この教会が受けることのできる祝福も減っていくでしょう…。もしも、例え、少々、私の得意な分野があったとしても、それだって、私1人だけの力です…。でも、もし、そこに、皆さんの助けと言うか、皆さんの時間や賜物が加わったら…、この教会の働きは、もっともっと、大きくなっていくのではないのでしょうか？

大切なことは…、今年、私たちの教会として、神のみこころに沿った執事が選ばれていくこと“だけ”ではありません。もしも、それだけなら、恐らく…、今年もまた、そう難しくなく、神のみこころに適った者たちが選ばれていくことでしょう…。でも、私が今願っていますことは、先程見たような、あのモーセのしゅうとの

アドバイスを通して、モーセだけでなく、イスラエルの民全体が成長させられたのと同じように…、教会の皆さんも、主にあって、ますます成長させられていくことです！

ここにおられる皆さんが、益々、執事たちのために祈り…、選ばれた執事たちを尊敬して下さって…、その執事たちを励まして下さって…、その執事たちと共に、教会の働き人となっていただくことです！聖書的に言うならば、それが例え、どこの教会であろうと、救われたクリスチャンは皆、キリストのからだの一部分であり…、それ故に、すべての信仰者は皆、キリストにあって、「働き人」なのです！ゲストではありません！…そうでしょ？

皆さんが、そのように、積極的になることによって…、また、私たちが、益々、みことばに従っていくことによって、私たちは、より成長していくことができるし、神からの祝福が与えられることにも繋がっていくのです。どうぞ、今後、ますます、皆さんが、主のみことばに沿って…、成長していくくださり…、ますます、主にある良き働き人となっていただきますことを願います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます…。